

対象校No. 883

注4

学校コード F127310108223

注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

大阪人間科学大学 人間科学部 社会創造学科

【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書  
(改正前大学設置基準適用)

学校法人 薫英学園

令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 教務課

職名・氏名 カチヨウ ニシダ ヨシヒロ  
課長 西田 佳弘

電話番号 06-6381-3000

(夜間) 06-6381-3000

e-mail ohs-kyomu@kun.ohs.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、  
当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、  
該当番号を記載してください。

# 目次

人間科学部

<社会創造学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	25

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 薫英学園

## (2) 大学名

大阪人間科学大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒566-8501

大阪府摂津市正雀1丁目4番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オガワ ミチオ) 小川 道雄 (昭和60年10月)		
学長	(イノウエ ヒロシ) 井上 博司 (令和3年4月)		
学部長	(スゴウチ ミツグ) 須河内 貢 (平成29年4月)		
学科長等	(ヤマグチ シュンスケ) 山口 俊介 (令和6年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)

令和6年度に報告する内容 → (6)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和6年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
人間科学部 社会創造学科 学士(社会創造学)	社会学・社会 福祉学関係	4 年	30 人	2年次 - 3年次 0 4年次 - 人	120 人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分につ いて	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	30 (-) [-]	- (-) [-]	-	0.63倍	-	
志願者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	34 (-) [-]	- (-) [-]	-			
受験者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	31 (-) [-]	- (-) [-]	-			
合格者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	29 (-) [-]	- (-) [-]	-			
B 入学者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	19 (-) [-]	- (-) [-]	-			
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.63	-	-			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。
- (春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・ 「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
2年次			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
			( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
3年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
					( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
4年次							-	-	-	-	-	-	
							[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
							( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	19 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
  - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
  - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
  - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{19} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<人間科学部 社会創造学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	FA演習	1前	2					2	1		
	対人援助演習Ⅰ	1前	1								7
	対人援助演習Ⅱ	1後	1			1					15
	社会と共生Ⅰ	1前		1							1
	社会と共生Ⅱ	2前		1							1
	社会と共生Ⅲ	3前		1							1
	人権と倫理	1後		2							1
	人間関係Ⅰ	1前・1後		2							1
	医療倫理	1後		2							1
	日本語基礎	1前		2							2
	文章表現法	1後		2							2
	ソーシャルマナーⅠ	1前		2							1
	ソーシャルマナーⅡ	1後		2							1
	キャリアデザインⅠ	1前		2							1
	キャリアデザインⅡ	2後		2							1
	社会学	1前		2							2
	生活と統計	2前		2							1
	社会調査論	1後		2							1
	生物学	1後		2							1
	多文化共生	1後		2							1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1							2
	情報処理演習Ⅱ	1後		1							2
	情報システム基礎Ⅰ	1後		1							1
	情報システム基礎Ⅱ	2前		1							1
	スポーツ実技Ⅰ	1通		2							4
	スポーツ実技Ⅱ	1通		2							2
	ヘルスプロモーション	1前		1							1
	オールワークショップ <sup>o</sup> (英語)Ⅰ	1前		1							5
	オールワークショップ <sup>o</sup> (英語)Ⅱ	1後		1							5
	コミュニケーション(英語)Ⅰ	2前		1							2
	コミュニケーション(英語)Ⅱ	2後		1							2
	医療英語	2後		1							1
	簿記会計	1後		2							1
	社会人基礎学力(数学)	1前・1後		2							1
	キャリアデザインⅢ	3後		2							1
	キャリアデザインⅣ	3後		2							1
	プレ演習Ⅰ	2前	2			3	1	1	1		
	プレ演習Ⅱ	2後	2			4			1		
	社会福祉概論	1前		2							1
	社会問題論	1後		2							1
	ジェンダー論	2前		2							1
	人間工学	2後		2							1
	心理学入門	1前		2							2
	発達心理学	2前		2							2
	障害者の心理	2後		2							1
	高齢者の心理	2後		2							1
	医学知識	1前・1後		2							1
	リハビリテーション概論	1前		2							1
	精神医学Ⅰ	2前		2							1
	教育心理学	1後		2							1
	特別支援教育原論	1前		2							1
小計(51科目)	-										
専門科目	社会創造学概論	1前	2			1	1	1			
	社会学概論Ⅰ	1前	2			1					
	社会学概論Ⅱ	1後	2			1					
	文化人類学	1前		2			1				

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	FA演習	1前	2							2	1	
	対人援助演習Ⅰ	1前	1									8
	対人援助演習Ⅱ	1後	1			1						15
	社会と共生Ⅰ	1前		1								1
	社会と共生Ⅱ	2前		1								1
	社会と共生Ⅲ	3前		1								1
	人権と倫理	1後		2								1
	人間関係Ⅰ	1前・1後		2								1
	医療倫理	1後		2								1
	日本語基礎	1前		2								2
	文章表現法	1後		2								2
	ソーシャルマナーⅠ	1前		2								1
	ソーシャルマナーⅡ	1後		2								1
	キャリアデザインⅠ	1前		2								1
	キャリアデザインⅡ	2後		2								1
	社会学	1前		2								2
	生活と統計	2前		2								1
	社会調査論	1後		2								1
	生物学	1後		2								1
	多文化共生	1後		2								1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1								2
	情報処理演習Ⅱ	1後		1								2
	情報システム基礎Ⅰ	1後		1								1
	情報システム基礎Ⅱ	2前		1								1
	スポーツ実技Ⅰ	1通		2								4
	スポーツ実技Ⅱ	1通		2								2
	ヘルスプロモーション	1前		1								1
	オールワークショップ <sup>o</sup> (英語)Ⅰ	1前		1								6
	オールワークショップ <sup>o</sup> (英語)Ⅱ	1後		1								6
	コミュニケーション(英語)Ⅰ	2前		1								2
	コミュニケーション(英語)Ⅱ	2後		1								2
	医療英語	2後		1								1
	簿記会計	1後		2								1
	社会人基礎学力(数学)	1前・1後		2								1
	キャリアデザインⅢ	3後		2								1
	キャリアデザインⅣ	3後		2								1
	プレ演習Ⅰ	2前	2			3	1	1	1			
	プレ演習Ⅱ	2後	2			4			1			
	社会福祉概論	1前		2								1
	社会問題論	1後		2								1
	ジェンダー論	2前		2								1
	人間工学	2後		2								1
	心理学入門	1前		2								2
	発達心理学	2前		2								2
	障害者の心理	2後		2								1
	高齢者の心理	2後		2								1
	医学知識	1前・1後		2								1
	リハビリテーション概論	1前		2								1
	精神医学Ⅰ	2前		2								1
	教育心理学	1後		2								1
	特別支援教育原論	1前		2								1
小計(51科目)	-											
専門科目	社会創造学概論	1前	2					2	1	1		
	社会学概論Ⅰ	1前	2					1				
	社会学概論Ⅱ	1後	2					1				
	文化人類学	1前		2					1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	社会と文化	1後		2		1						
	社会とメディア	1後		2					1			
	地域社会学	1前		2			1					
	産業社会学	1後		2		1						
	社会調査演習	2後		1		1						
	法学	1後		2								1
	行政学	2前		2		1						
	現代と社会	1前		2		1						
	地域子育て支援社会論	1後		2			1					
	フィールドワーク論	1後		2		1						
	経済学	1後		2								1
	商学	1後		2		1						
	経営学	2前		2		1						
	簿記会計(応用)	2前		2		1						
	大衆文化論	2前		2			1					
	知的財産法	2前		2				1				
	広告論	2前		2		1						
	マーケティング論	2前		2		1						
	インターネットビジネス論	2後		2				1				
	NPOとソーシャルビジネス	2後		2				1				
	情報科学	3前		2					1			
	情報ネットワーク論	3後		2			1					
	地域産業論	3前		2		1						
	地域振興論	3後		2		1						
	流行科学論	3前		2			1					
	サブカルチャー論	3後		2			1					
	ビジネスプランⅠ	3前		2				1				
	ビジネスプランⅡ	3後		2				1				
	認知科学	2前		2					1			
	論理的思考法	2後		2					1			
	リスクコミュニケーション論	2後		2		1						
	メディアコンテンツ論	3前		2				1				
	インタラクショナルデザイン	3前		2					1			
	参加型デザイン論	3後		2					1			
	ライフデザイン論	4前		2				1				
	自己表現技術論	1前		2					1			
	コミュニケーションデザイン論	2後		2					1			
	社会実践演習Ⅰ	2前	1			3	1	1	1			
	社会実践演習Ⅱ	2後	1			3	1	1	1			
	社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク)	2後		1		3	1	1				
	社会実践実習Ⅱ(インターンシップ)	3前		1		3	1	1				
実践情報処理Ⅰ	1前		1				1					
実践情報処理Ⅱ	1後		1					1				
実践情報処理Ⅲ	2前		1					1				
実践情報処理Ⅳ	2後		1				1					
実践情報処理Ⅴ	3前		1					1				
写真・映像制作基礎	1前	2						1				
音声科学	1後	2						1				
データベース概論	2前		2				1					
データ分析Ⅰ(SPSS)	2前		1					1				
データ分析Ⅱ(NVivo)	2後		1					1				
コンピュータ技術Ⅰ	1前		1				1	1				
コンピュータ技術Ⅱ	1前		1					2				
コンピュータ技術Ⅲ	1後		1				1	1				
コンピュータ技術Ⅳ	1後		1					2				
コンピュータ技術Ⅴ	2前		1				1	1				
コンピュータ技術Ⅵ	2前		1					2				
コンピュータ技術Ⅶ	2後		1				1	1				
コンピュータ技術Ⅷ	2後		1					2				
社会表現演習Ⅰ	3前		1				1	1				
社会表現演習Ⅱ	3前		1					2				
社会表現演習Ⅲ	3後		1		1			1				
社会表現演習Ⅳ	3後		1		1			1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	社会と文化	1後		2		1						
	社会とメディア	1後		2					1			
	地域社会学	1前		2			1					
	産業社会学	1後		2		1						
	社会調査演習	2後		1		1						
	法学	1後		2								1
	行政学	2前		2		1						
	現代と社会	1前		2		1						
	地域子育て支援社会論	1後		2			1					
	フィールドワーク論	1後		2		1						
	経済学	1後		2								2
	商学	1後		2		1						
	経営学	2前		2		1						
	簿記会計(応用)	2前		2		1						
	大衆文化論	2前		2			1					
	知的財産法	2前		2				1				
	広告論	2前		2		1						
	マーケティング論	2前		2		1						
	インターネットビジネス論	2後		2				1				
	NPOとソーシャルビジネス	2後		2				1				
	情報科学	3前		2					1			
	情報ネットワーク論	3後		2			1					
	地域産業論	3前		2		1						
	地域振興論	3後		2		1						
	流行科学論	3前		2			1					
	サブカルチャー論	3後		2			1					
	ビジネスプランⅠ	3前		2				1				
	ビジネスプランⅡ	3後		2				1				
	認知科学	2前		2					1			
	論理的思考法	2後		2					1			
	リスクコミュニケーション論	2後		2		1						
	メディアコンテンツ論	3前		2				1				
	インタラクショナルデザイン	3前		2					1			
	参加型デザイン論	3後		2					1			
	ライフデザイン論	4前		2					1			
	自己表現技術論	1前		2					1			
	コミュニケーションデザイン論	2後		2					1			
	社会実践演習Ⅰ	2前	1			3	1	1	1			
	社会実践演習Ⅱ	2後	1			3	1	1	1			
	社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク)	2後		1		3	1	1				
	社会実践実習Ⅱ(インターンシップ)	3前		1		3	1	1				
実践情報処理Ⅰ	1前		1				1					
実践情報処理Ⅱ	1後		1					1				
実践情報処理Ⅲ	2前		1					1				
実践情報処理Ⅳ	2後		1				1					
実践情報処理Ⅴ	3前		1					1				
写真・映像制作基礎	1前	2						1				
音声科学	1後	2						1				
データベース概論	2前		2				1					
データ分析Ⅰ(SPSS)	2前		1					1				
データ分析Ⅱ(NVivo)	2後		1					1				
コンピュータ技術Ⅰ	1前		1					2				
コンピュータ技術Ⅱ	1前		1					1				
コンピュータ技術Ⅲ	1後		1				1	1				
コンピュータ技術Ⅳ	1後		1					2				
コンピュータ技術Ⅴ	2前		1				1	1				
コンピュータ技術Ⅵ	2前		1					2				
コンピュータ技術Ⅶ	2後		1				1	1				
コンピュータ技術Ⅷ	2後		1					2				
社会表現演習Ⅰ	3前		1				1	1				
社会表現演習Ⅱ	3前		1					2				
社会表現演習Ⅲ	3後		1		1			1				
社会表現演習Ⅳ	3後		1		1			1				



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	社会表現総合演習Ⅰ	4前		1						2		
	社会表現総合演習Ⅱ	4前		1		4	1	1	2			
	社会創造学演習Ⅰ	3通	4			4	1	2	2			
	社会創造学演習Ⅱ	4通	4			4	1	2	2			
	卒業研究発表	4後	2			4	1	2	3			
	小計(72科目)	-										
合計(123科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目34単位以上(ただし外国語2単位を含む)、卒業必修科目を含む学科専門科目90単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、基礎科目・学科専門科目それぞれの取得単位数は、20単位を上限としても一方の科目分類の取得単位数に読み替えることができる。 【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	社会表現総合演習Ⅰ	4前		1						2		
	社会表現総合演習Ⅱ	4前		1		4	1	1	2			
	社会創造学演習Ⅰ	3通	4			4	1	2	2			
	社会創造学演習Ⅱ	4通	4			4	1	2	2			
	卒業研究発表	4後	2			4	1	2	3			
	小計(72科目)	-										
合計(123科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目34単位以上(ただし外国語2単位を含む)、卒業必修科目を含む学科専門科目90単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、基礎科目・学科専門科目それぞれの取得単位数は、20単位を上限としても一方の科目分類の取得単位数に読み替えることができる。 【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和6年度(新)】→【令和5年度(新)】→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度(旧)】→【令和5年度

## (1) ②授業科目表に関する変更内容

### 【令和6年度】

- ・ 教育体制の充実のために「対人援助演習Ⅰ」の兼任教員の配置を「7」から「8」に変更。
- ・ 教育体制の充実のために「オーラルワークショップ(英語)Ⅰ」「オーラルワークショップ(英語)Ⅱ」の兼任・兼任教員の配置を「5」から「6」に変更。
- ・ 教育体制の充実のために「社会創造学概論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・ 教育体制の充実のために「経済学」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・ 科目間の担当者変更のために「コンピュータ技術Ⅰ」の専任教員の配置を「講師1」「助教1」から「助教2」に、「コンピュータ技術Ⅱ」の専任教員の配置を「助教2」から「講師1」「助教1」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和6年度(新)】→【令和5年度(新)】→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度(旧)】→【令和5年度

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
15 科目	108 科目	0 科目	123 科目	15 科目 [ 0 ]	108 科目 [ 0 ]	0 科目 [ 0 ]	123 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{123} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備考	
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	7,774.34㎡	0㎡	0㎡	7,774.34㎡			
	運動場用地	15,710.80㎡	0㎡	0㎡	15,710.80㎡			
	小 計	23,485.14㎡	0㎡	0㎡	23,485.14㎡			
	そ の 他	21,190.55㎡	0㎡	0㎡	21,190.55㎡			
	合 計	44,675.69㎡	0㎡	0㎡	44,675.69㎡			
(2) 校舎	専 用	25,004.06㎡	0㎡	0㎡	25,004.06㎡			
	(25,004.06㎡)	( 0㎡)	( 0㎡)	(25,004.06㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	35室	14室	49室	3室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	人間科学部 社会創造学科			10 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	視聴覚資料は学部単位での特定不能なため、大学全体の数
	人間科学部 社会創造学科	34,783 [2,422] (34,783 [2,422])	58 [0] (58 [0])	0 [0] (0 [0])	5,882 (5,882)	370 (370)	45 (45)	
	計	34,783 [2,422] (34,783 [2,422])	58 [0] (58 [0])	0 [0] (0 [0])	5,882 (5,882)	370 (370)	45 (45)	
(6) 図書館	面 積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	954.5㎡	214		100,000				
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	1,377.1㎡	野球場1面		テニスコート4面				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	490千円	490千円	図書購入費	5,783千円	2,573千円	2,573千円
		共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	53,786千円	17,061千円	17,061千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,290千円	1,090千円	1,090千円	1,090千円	- 千円	- 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経費補助金、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	大阪人間科学大学							収容定員充足率0.7倍以下の学科数	5	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
人間科学部	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
人間科学部	4	180	3年次0	765		0.69	—	—	平成13	-	
社会福祉学科	4	60	3年次0	300	学士(社会福祉学)	0.85	—	—	平成13	大阪府摂津市正雀1-4-1	令和6年度から入学定員変更(80→60)
医療福祉学科 介護福祉専攻	4	—	—	—	学士(医療福祉学)	—	—	—	平成24	同上	令和2年度入学生より学生募集停止
医療福祉学科 視能訓練専攻	4	30	—	150	学士(医療福祉学)	0.47	—	—	平成24	同上	令和6年度から入学定員変更(40→30)
子ども教育学科	4	60	3年次0	285	学士(子ども教育学)	0.64	—	—	平成24	同上	令和6年度から入学定員変更(75→60)
社会創造学科	4	30	3年次0	30	学士(社会創造学)	0.63	—	—	令和6	同上	
健康心理学科	4	—	—	—	学士(心理学)	—	—	—	平成17	同上	令和2年度入学生より学生募集停止
医療心理学科 臨床発達心理専攻	4	—	—	—	学士(医療心理学)	—	—	—	平成24	同上	令和2年度入学生より学生募集停止
医療心理学科 言語聴覚専攻	4	—	—	—	学士(医療心理学)	—	—	—	平成24	同上	令和2年度入学生より学生募集停止
理学療法学科	4	—	—	—	学士(理学療法学)	—	—	—	平成28	同上	令和2年度入学生より学生募集停止
心理学部	4	105	3年次0	375		1.14	1.12	—	令和2	-	
心理学科	4	105	3年次0	375	学士(心理学)	1.14	1.12	—	令和2	大阪府摂津市正雀1-4-1	令和6年度から入学定員変更(90→105)
保健医療学部	4	140	—	560		0.77	—	—	令和2	-	
理学療法学科	4	60	—	240	学士(理学療法学)	0.98	—	—	令和2	大阪府摂津市正雀1-4-1	
作業療法学科	4	40	—	160	学士(作業療法学)	0.60	—	—	令和2	同上	
言語聴覚学科	4	40	—	160	学士(言語聴覚学)	0.62	—	—	令和2	同上	
大学全体	4	425	3年次0	1700		0.81	—	—	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。  
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。  
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。  
 ・学部/学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。  
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。  
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。  
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。  
 ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。  
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<人間科学部 社会創造学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和6年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授 (学科長)	山口 俊介 (59) <令和6年4月> 芸術学士	専	教授 (学科長)	山口 俊介 (59) <令和6年4月> 芸術学士
		対人援助演習Ⅱ※ ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 社会創造学概論 商学 経営学 広告論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ 社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク) 社会実践実習Ⅱ(インターンシップ) 社会表現演習Ⅲ 社会表現演習Ⅳ 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表			対人援助演習Ⅱ※ ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 社会創造学概論 商学 経営学 広告論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ 社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク) 社会実践実習Ⅱ(インターンシップ) 社会表現演習Ⅲ 社会表現演習Ⅳ 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表
専	教授	柏尾 眞津子 (70) <令和6年4月> 社会学修士	専	教授	柏尾 眞津子 (70) <令和6年4月> 社会学修士
		ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 現代と社会 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表			ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 現代と社会 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表
			専	教授	治京 玉記 (52) <令和6年4月> 博士(薬学)
					ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 社会創造学概論 情報科学 認知科学 論理的思考法 インスタラクショナルデザイン 参加型デザイン論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ データ分析Ⅰ(SPSS) データ分析Ⅱ(NVivo) 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表
専	教授	濱千代 早由美 (54) <令和6年4月> 修士(社会学)	専	教授	濱千代 早由美 (54) <令和6年4月> 修士(社会学)
		ブレ演習Ⅱ 社会学概論Ⅰ 社会学概論Ⅱ 社会と文化 社会調査演習 フィールドワーク論 地域産業論 地域振興論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ 社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク) 社会実践実習Ⅱ(インターンシップ) 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表			ブレ演習Ⅱ 社会学概論Ⅰ 社会学概論Ⅱ 社会と文化 社会調査演習 フィールドワーク論 地域産業論 地域振興論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ 社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク) 社会実践実習Ⅱ(インターンシップ) 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表
専	教授	拾井 雅人 (63) <令和6年4月> 修士(経済学)	専	教授	拾井 雅人 (63) <令和6年4月> 修士(経済学)
		ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 産業社会学 行政学 簿記会計(応用) マーケティング論 リスクコミュニケーション論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ 社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク) 社会実践実習Ⅱ(インターンシップ) 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表			ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 産業社会学 行政学 簿記会計(応用) マーケティング論 リスクコミュニケーション論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ 社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク) 社会実践実習Ⅱ(インターンシップ) 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	米山 知子 (48) <令和6年4月> 博士(文学)	専	准教授	米山 知子 (48) <令和6年4月> 博士(文学)
		プレ演習Ⅰ 社会創造学概論 文化人類学 地域社会学 地域子育て支援社会論 大衆文化論 流行科学論 サブカルチャー論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ 社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク) 社会実践実習Ⅱ(インターンシップ) 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表			プレ演習Ⅰ 社会創造学概論 文化人類学 地域社会学 地域子育て支援社会論 大衆文化論 流行科学論 サブカルチャー論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ 社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク) 社会実践実習Ⅱ(インターンシップ) 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表
専	講師	武貞 真未 (34) <令和6年4月> 学士(経営学)	専	講師	武貞 真未 (34) <令和6年4月> 学士(経営学)
		FA演習 プレ演習Ⅰ 知的財産法 インターネットビジネス論 NPOとソーシャルビジネス ビジネスプランⅠ ビジネスプランⅡ ライフデザイン論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ 社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク) 社会実践実習Ⅱ(インターンシップ) 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表			FA演習 プレ演習Ⅰ 知的財産法 インターネットビジネス論 NPOとソーシャルビジネス ビジネスプランⅠ ビジネスプランⅡ ライフデザイン論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ 社会実践実習Ⅰ(フィールドワーク) 社会実践実習Ⅱ(インターンシップ) 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表
専	講師	中塚 智子 (41) <令和6年4月> 修士(芸術)	専	講師	中塚 智子 (41) <令和6年4月> 修士(芸術)
		FA演習 社会創造学概論 社会とメディア 情報ネットワーク論 コミュニケーションデザイン論 実践情報処理Ⅰ 実践情報処理Ⅳ データベース概論 コンピュータ技術Ⅰ コンピュータ技術Ⅲ コンピュータ技術Ⅴ コンピュータ技術Ⅶ 社会表現演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表			FA演習 社会創造学概論 社会とメディア 情報ネットワーク論 コミュニケーションデザイン論 実践情報処理Ⅰ 実践情報処理Ⅳ データベース概論 <b>コンピュータ技術Ⅱ</b> コンピュータ技術Ⅲ コンピュータ技術Ⅴ コンピュータ技術Ⅶ 社会表現演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表
専	助教	門田 圭祐 (29) <令和7年4月> 博士(人間科学)	専	助教	
		プレ演習Ⅰ プレ演習Ⅱ 情報科学 認知科学 論理的思考法 インストラクショナルデザイン 参加型デザイン論 社会実践演習Ⅰ 社会実践演習Ⅱ データ分析Ⅰ(SPSS) データ分析Ⅱ(NVivo) 社会表現総合演習Ⅱ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表			
専	助教	川上 洸 (28) <令和6年4月> 学士(美術文化)	専	助教	川上 洸 (29) <令和6年4月> 学士(美術文化)
		FA演習 メディアコンテンツ論 自己表現技術論 実践情報処理Ⅱ 実践情報処理Ⅴ 写真・映像制作基礎 音声科学 コンピュータ技術Ⅱ コンピュータ技術Ⅳ コンピュータ技術Ⅵ コンピュータ技術Ⅷ 社会表現演習Ⅱ 社会表現総合演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表			FA演習 メディアコンテンツ論 自己表現技術論 実践情報処理Ⅱ 実践情報処理Ⅴ 写真・映像制作基礎 音声科学 <b>コンピュータ技術Ⅰ</b> コンピュータ技術Ⅳ コンピュータ技術Ⅵ コンピュータ技術Ⅷ 社会表現演習Ⅱ 社会表現総合演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅰ 社会創造学演習Ⅱ 卒業研究発表
専	助教	森田 望奈未 (29) <令和6年4月> 学士(芸術工学)	専	助教	森田 望奈未 (29) <令和6年4月> 学士(芸術工学)
		実践情報処理Ⅲ コンピュータ技術Ⅰ コンピュータ技術Ⅱ コンピュータ技術Ⅲ コンピュータ技術Ⅳ コンピュータ技術Ⅴ コンピュータ技術Ⅵ コンピュータ技術Ⅶ コンピュータ技術Ⅷ 社会表現演習Ⅰ 社会表現演習Ⅱ 社会表現演習Ⅲ 社会表現演習Ⅳ 社会表現総合演習Ⅰ 社会表現総合演習Ⅱ 卒業研究発表			実践情報処理Ⅲ コンピュータ技術Ⅰ コンピュータ技術Ⅱ コンピュータ技術Ⅲ コンピュータ技術Ⅳ コンピュータ技術Ⅴ コンピュータ技術Ⅵ コンピュータ技術Ⅶ コンピュータ技術Ⅷ 社会表現演習Ⅰ 社会表現演習Ⅱ 社会表現演習Ⅲ 社会表現演習Ⅳ 社会表現総合演習Ⅰ 社会表現総合演習Ⅱ 卒業研究発表



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授(学長)	井上 博司 (68) ＜令和6年4月＞ 社会学士	兼任	教授(学長)	井上 博司 (68) ＜令和6年4月＞ 社会学士
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	教授(副学長)	山岸 正和 (71) ＜令和6年4月＞ 医学博士	兼任	教授(副学長)	山岸 正和 (72) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		人間関係Ⅰ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ			人間関係Ⅰ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ
兼任	教授(学部長)	須河内 貢 (61) ＜令和6年4月＞ 修士(心理学)			
		対人援助演習Ⅱ※			
兼任	教授	岩井 圭司 (62) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)	兼任	教授	岩井 圭司 (62) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)
		医学知識			医学知識
兼任	教授	大野 まどか (55) ＜令和6年4月＞ 社会学修士			
		対人援助演習Ⅱ※			
兼任	教授	岡田 雅樹 (52) ＜令和6年4月＞ 教育学修士	兼任	教授	岡田 雅樹 (52) ＜令和6年4月＞ 教育学修士
		社会と共生Ⅲ			社会と共生Ⅲ
兼任	教授	加藤 敬徳 (70) ＜令和6年4月＞ 学士(医学)	兼任	教授	加藤 敬徳 (70) ＜令和6年4月＞ 学士(医学)
		精神医学Ⅰ			精神医学Ⅰ
兼任	教授	佐光 健 (52) ＜令和6年4月＞ 修士(社会福祉学)	兼任	教授	佐光 健 (52) ＜令和6年4月＞ 修士(社会福祉学)
		社会問題論			社会問題論
兼任	教授	武田 卓也 (49) ＜令和6年4月＞ 博士(社会学)	兼任	教授	武田 卓也 (49) ＜令和6年4月＞ 博士(社会学)
		対人援助演習Ⅱ※ 社会と共生Ⅰ 人権と倫理			対人援助演習Ⅱ※ 社会と共生Ⅰ
兼任	教授	辻 薫 (65) ＜令和6年4月＞ 博士(社会福祉学)			
		対人援助演習Ⅱ※			
			兼任	教授	寺地 一浩 (64) ＜令和6年4月＞ 博士(創造都市)
					経済学
兼任	教授	羽根 隆 (64) ＜令和6年4月＞ 文学士	兼任	教授	羽根 隆 (64) ＜令和6年4月＞ 文学士
		オラルワークショップ(英語)Ⅰ オラルワークショップ(英語)Ⅱ			オラルワークショップ(英語)Ⅰ オラルワークショップ(英語)Ⅱ
兼任	教授	日上 耕司(64) ＜令和6年4月＞博士 (心理学)	兼任	教授	日上 耕司(64) ＜令和6年4月＞博士 (心理学)
		特別支援教育原論			特別支援教育原論
兼任	教授	丸山 亜実 (53) ＜令和6年4月＞ 社会学士			
		対人援助演習Ⅱ※			
			兼任	教授	宮本 安住己 (69) ＜令和6年4月＞ 修士(コミュニケーション障害学)
					対人援助演習Ⅱ※
兼任	教授	宮崎 佐利 (66) ＜令和6年4月＞ 教育学士	兼任	教授	宮崎 佐利 (66) ＜令和6年4月＞ 教育学士
		日本語基礎 文章表現法			日本語基礎 文章表現法
兼任	教授	山川 友康 (77) ＜令和6年4月＞ 修士(社会学)	兼任	教授	山川 友康 (77) ＜令和6年4月＞ 修士(社会学)
		リハビリテーション概論			リハビリテーション概論
兼任	准教授	奥村 裕 (50) ＜令和6年4月＞ 修士(保健学)	兼任	准教授	奥村 裕 (50) ＜令和6年4月＞ 修士(保健学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	城越 幸一 (61) ＜令和6年4月＞ 体育学士	兼任	准教授	城越 幸一 (61) ＜令和6年4月＞ 体育学士
		対人援助演習Ⅱ※ スポーツ実技Ⅰ ヘルスプロモーション			対人援助演習Ⅱ※ スポーツ実技Ⅰ ヘルスプロモーション
兼任	准教授	藤田 浩之 (43) ＜令和6年4月＞ 博士(健康科学)	兼任	准教授	藤田 浩之 (43) ＜令和6年4月＞ 博士(健康科学)
		医療英語			医療英語
兼任	准教授	樹田 浩三 (53) ＜令和6年4月＞ 医科学修士	兼任	准教授	樹田 浩三 (53) ＜令和6年4月＞ 医科学修士
		対人援助演習Ⅱ※			多文化共生
兼任	准教授	村上 雅彦 (48) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)	兼任	准教授	村上 雅彦 (48) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)
		社会学 スポーツ実技Ⅰ			社会学 スポーツ実技Ⅰ
			兼任	准教授	横田 敏子 (53) ＜令和6年4月＞ 修士(学術)
					対人援助演習Ⅱ※
			兼任	講師	岩田 真昭 (58) ＜令和6年4月＞ 修士(社会福祉学)
					対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	木下 亮平 (38) ＜令和6年4月＞ 修士(保健学)	兼任	講師	木下 亮平 (38) ＜令和6年4月＞ 修士(保健学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	芹田 卓身 (62) ＜令和6年4月＞ 修士(カウンセリング)	兼任	准教授	芹田 卓身 (62) ＜令和6年4月＞ 修士(カウンセリング)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	高木 麻未 (44) ＜令和6年4月＞ 博士(社会学)			
		対人援助演習Ⅱ※			
兼任	講師	筒井 優介 (44) ＜令和6年4月＞ 修士(人間科学)	兼任	講師	筒井 優介 (45) ＜令和6年4月＞ 修士(人間科学)
		社会と共生Ⅱ			社会と共生Ⅱ
兼任	助教	青木 弥穂 (48) ＜令和6年4月＞ 学士(理学)	兼任	講師	青木 弥穂 (48) ＜令和6年4月＞ 学士(理学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	岡 孝夫 (50) ＜令和6年4月＞ 心理学士	兼任	講師	岡 孝夫 (50) ＜令和6年4月＞ 心理学士
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	坂下 英淑 (39) ＜令和6年4月＞ 修士(心理臨床学)	兼任	助教	坂下 英淑 (39) ＜令和6年4月＞ 修士(心理臨床学)
		経済学			対人援助演習Ⅱ※ 経済学
			兼任	助教	清水 凌平 (29) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)
					対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	羽下 飛鳥 (45) ＜令和6年4月＞ 修士(学術)	兼任	助教	羽下 飛鳥 (46) ＜令和6年4月＞ 修士(学術)
		教育心理学			教育心理学
			兼任	助教	中川 友紀 (35) ＜令和6年4月＞ 博士(保健学)
					対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	弓岡 まみ (37) ＜令和6年4月＞ 修士(健康福祉学)	兼任	講師	弓岡 まみ (37) ＜令和6年4月＞ 修士(健康福祉学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	秋葉 理乃 (39) ＜令和6年4月＞ 修士(人間科学)	兼任	講師	秋葉 理乃 (39) ＜令和6年4月＞ 修士(人間科学)
		対人援助演習Ⅰ			対人援助演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	穂久 宗徳 (53) <令和6年4月> 学士(農学)
		対人援助演習 I
兼任	講師	上田 智巳 (49) <令和6年4月> 修士(文学)
		情報処理演習 I 情報処理演習 II 情報システム基礎 I 情報システム基礎 II
兼任	講師	遠藤 たまえ (63) <令和6年4月> 修士(人間科学)
		対人援助演習 I
兼任	講師	大貫 溪介 (27) <令和6年4月> 修士(理学)
		生物学
兼任	講師	春日 彩花 (35) <令和7年4月> 博士(人間科学)
		高齢者の心理
兼任	講師	我藤 諭 (47) <令和6年4月> 社会福祉学修士
		社会人基礎学力(数学)
兼任	講師	木内 真弘 (62) <令和6年4月> 修士(学術)
		スポーツ実技 I
兼任	講師	金 波 (33) <令和6年4月> 修士(人間科学)
		心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (56) <令和6年4月> 高等学校卒
		スポーツ実技 II
兼任	講師	黒田 翔大 (33) <令和6年4月> 博士(文学)
		日本語基礎 文章表現法
兼任	講師	黒田 由衣 (40) <令和6年4月> 修士(社会福祉学)
		社会福祉概論
兼任	講師	鴻上 圭太 (49) <令和6年4月> 修士(社会学)
		対人援助演習 I
兼任	講師	佐藤 泰子 (64) <令和6年4月> 博士(人間・環境学)
		医療倫理

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	穂久 宗徳 (53) <令和6年4月> 学士(農学)
		対人援助演習 I
兼任	講師	上田 智巳 (49) <令和6年4月> 修士(文学)
		情報処理演習 I 情報処理演習 II 情報システム基礎 I 情報システム基礎 II
兼任	講師	遠藤 格 (41) <令和6年4月> 修士(文学)
		人権と倫理
兼任	講師	後藤 登美子 (53) <令和6年4月> 修士(社会福祉学)
		対人援助演習 I
兼任	講師	水谷 真弓 (65) <令和6年4月> 修士(臨床福祉学)
		対人援助演習 I
兼任	講師	大貫 溪介 (27) <令和6年4月> 修士(理学)
		生物学
兼任	講師	春日 彩花 (34) <令和7年4月> 博士(人間科学)
		高齢者の心理
兼任	講師	我藤 諭 (47) <令和6年4月> 社会福祉学修士
		社会人基礎学力(数学)
兼任	講師	木内 真弘 (62) <令和6年4月> 修士(学術)
		スポーツ実技 I
兼任	講師	金 波 (34) <令和6年4月> 修士(人間科学)
		心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (56) <令和6年4月> 高等学校卒
		スポーツ実技 II
兼任	講師	竹永 知弘 (32) <令和6年4月> 博士(文学)
		日本語基礎 文章表現法
兼任	講師	佐村河内 力 (46) <令和6年4月> 政策科学修士
		社会福祉概論
兼任	講師	鴻上 圭太 (50) <令和6年4月> 修士(社会学)
		対人援助演習 I
兼任	講師	佐藤 泰子 (64) <令和6年4月> 博士(人間・環境学)
		医療倫理

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	柴田(吉崎)和子 (55) ＜令和6年4月＞ 社会学修士	兼任	講師	柴田(吉崎)和子 (55) ＜令和6年4月＞ 社会学修士
		社会学 社会調査論			社会学 社会調査論
兼任	講師	島村 敏生 (69) ＜令和6年4月＞ 文学士	兼任	講師	島村 敏生 (70) ＜令和6年4月＞ 文学士
		オールラウンド(英語) I オールラウンド(英語) II			オールラウンド(英語) I オールラウンド(英語) II
兼任	講師	杉原(善本)久仁子 (61) ＜令和7年4月＞ 博士(社会学)	兼任	講師	杉原(善本)久仁子 (61) ＜令和7年4月＞ 博士(社会学)
		ジェンダー論			ジェンダー論
兼任	講師	高松 琢麻 (50) ＜令和6年4月＞ 修士(人間文化学)	兼任	講師	高松 琢麻 (50) ＜令和6年4月＞ 修士(人間文化学)
		オールラウンド(英語) I オールラウンド(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II			オールラウンド(英語) I オールラウンド(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II
兼任	講師	水流 寛二 (57) ＜令和6年4月＞ 体育学士	兼任	講師	水流 寛二 (57) ＜令和6年4月＞ 体育学士
		対人援助演習 I			対人援助演習 I
兼任	講師	出口(中辻)寛子 (43) ＜令和7年4月＞ 博士(工学)	兼任	講師	出口(中辻)寛子 (42) ＜令和7年4月＞ 博士(工学)
		人間工学			人間工学
兼任	講師	中嶋 沙也 (45) ＜令和7年4月＞ 学士(社会学)	兼任	講師	中嶋 沙也 (44) ＜令和7年4月＞ 学士(社会学)
		発達心理学			発達心理学
兼任	講師	中田(阿部)英利子 (47) ＜令和7年4月＞ 博士(文学)	兼任	講師	中田(阿部)英利子 (46) ＜令和7年4月＞ 博士(文学)
		発達心理学 障害者の心理			発達心理学 障害者の心理
兼任	講師	中西(荒木)美穂 (55) ＜令和6年4月＞ 修士(文学)	兼任	講師	中西(荒木)美穂 (55) ＜令和6年4月＞ 修士(文学)
		対人援助演習 I			対人援助演習 I
兼任	講師	中村 泰剛 (53) ＜令和6年4月＞ 専門学校卒	兼任	講師	中村 泰剛 (53) ＜令和6年4月＞ 専門学校卒
		情報処理演習 I 情報処理演習 II			情報処理演習 I 情報処理演習 II
兼任	講師	西沢 敏美 (69) ＜令和6年4月＞ 法学士	兼任	講師	西沢 敏美 (69) ＜令和6年4月＞ 法学士
		キャリアデザイン I キャリアデザイン II			キャリアデザイン I キャリアデザイン II
兼任	講師	秦 康宏 (60) ＜令和6年4月＞ 修士(学術)			
		多文化共生			
兼任	講師	林 可奈子 (41) ＜令和6年4月＞ 修士(言語教育情報学)	兼任	講師	林 可奈子 (41) ＜令和6年4月＞ 修士(言語教育情報学)
		オールラウンド(英語) I オールラウンド(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II			オールラウンド(英語) I オールラウンド(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II
兼任	講師	東 節子 (67) ＜令和6年4月＞ 社会学士	兼任	講師	東 節子 (67) ＜令和6年4月＞ 社会学士
		ソーシャルマナー I			ソーシャルマナー I
兼任	講師	藤本 恵子 (60) ＜令和6年4月＞ 修士(学術)			
		オールラウンド(英語) I オールラウンド(英語) II			
			兼任	講師	大庭(山田)夕穂 (35) ＜令和6年4月＞ 修士(学術)
					オールラウンド(英語) I オールラウンド(英語) II
			兼任	講師	谷川 明代 (54) ＜令和6年4月＞ 文学士
					オールラウンド(英語) I オールラウンド(英語) II



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	細谷 周史 (50) <令和7年4月> 修士(心理学)	兼任	講師	細谷 周史 (49) <令和7年4月> 修士(心理学)
		生活と統計			生活と統計
兼任	講師	宮村 ミエコ (58) <令和6年4月> 高等学校卒	兼任	講師	宮村 ミエコ (58) <令和6年4月> 高等学校卒
		ソーシャルマナーⅡ			ソーシャルマナーⅡ
兼任	講師	三好 智仁 (30) <令和6年4月> 修士(人間科学)	兼任	講師	三好 智仁 (30) <令和6年4月> 修士(人間科学)
		対人援助演習Ⅰ			対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	森 征樹 (53) <令和6年4月> Magister atrium (ドイツ連邦共和国)	兼任	講師	森 征樹 (53) <令和6年4月> Magister atrium (ドイツ連邦共和国)
		法学			法学
兼任	講師	山本 展明 (34) <令和6年4月> 修士(都市政策)	兼任	講師	山本 展明 (34) <令和6年4月> 修士(都市政策)
		心理学入門			心理学入門
兼任	講師	吉田 育弘 (56) <令和6年4月> 経済学士	兼任	講師	吉田 育弘 (56) <令和6年4月> 経済学士
		簿記会計			簿記会計
兼任	講師	吉田 美智子 (67) <令和6年4月> 体育学士	兼任	講師	吉田 美智子 (67) <令和6年4月> 体育学士
		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ			スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(み)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

・専任教員として令和7年4月に就任予定の「門田圭祐助教」就任辞退により令和6年4月に「治京玉記教授」採用。（「社会創造学概論」担当。令和7年度以降「ブレ演習Ⅰ」「ブレ演習Ⅱ」「情報科学」「認知科学」「論理的思考法」「インストラクショナルデザイン」「参加型デザイン論」「社会実践演習Ⅰ」「社会実践演習Ⅱ」「データ分析Ⅰ（SPSS）」「データ分析Ⅱ（NVivo）」「社会表現総合演習Ⅱ」「社会創造学演習Ⅰ」「社会創造学演習Ⅱ」「卒業研究発表」担当予定）。

・「コンピュータ技術Ⅰ」の担当教員から「中塚智子講師」を削除し、「川上洗助教」を追加。

・「コンピュータ技術Ⅱ」の担当教員から「川上洗助教」を削除し、「中塚智子講師」を追加。

・「対人援助演習Ⅱ」の「須河内貢兼担教授」「大野まどか兼担教授」「辻薫兼担教授」「丸山亜実兼担教授」「榊田浩三兼担准教授」「高木麻未兼担講師」を「宮本安住己兼担教授」「横田敏子兼担准教授」「岩田貞昭兼担講師」「坂下英淑兼担助教」「清水凌平兼担助教」「中川友紀兼担助教」に変更。

・「経済学」の担当教員に「寺地一浩兼担教授」を追加。

・「人権と倫理」の「武田卓也兼担教授」を「遠藤格兼任講師」に変更。

・「多文化共生」の「秦康宏兼任講師」を「榊田浩三兼担准教授」に変更。

・「対人援助演習Ⅰ」の「遠藤たまえ兼任講師」を「後藤登美子兼任講師」「水谷真弓兼任講師」に変更。

・「日本語基礎」「文章表現法」の「黒田翔太兼任講師」を「竹永知弘兼任講師」に変更。

・「社会福祉概論」の「黒田由衣兼任講師」を「佐村河内力兼任講師」に変更。

・「オーラルワークショップ（英語）Ⅰ」「オーラルワークショップ（英語）Ⅱ」の「藤本恵子兼任講師」を「大庭（山田）夕穂兼任講師」「谷川明代兼任講師」に変更。

・職名の変更。「芹田卓身兼担講師」を「芹田卓身兼担准教授」に、「青木弥穂兼担助教」を「青木弥穂兼担講師」に、「岡孝夫兼担助教」を「岡孝夫兼担講師」に、「弓岡まみ兼担助教」を「弓岡まみ兼担講師」に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**原則としてAC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。  
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
4	1	2	3	10	0	5	1	2	2	10	0
(4)	(1)	(2)	(2)	(9)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
5	1	2	2	10	0	5	1	2	2	10	0
[1]	[0]	[0]	[△1]	[0]	[0]	[1]	[0]	[0]	[△1]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	1 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{10}{10} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{10} = \boxed{10} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	助教	門田 圭祐	R5.7	必修	プレ演習 I	①	R5.7 一身上の都合により就任辞退（6）			
				必修	プレ演習 II	①				
				選択	情報科学	①				
				選択	認知科学	①				
				選択	論理的思考法	①				
				選択	インストラクショナルデザイン	①				
				選択	参加型デザイン論	①				
				必修	社会実践演習 I	①				
				必修	社会実践演習 II	①				
				選択	データ分析 I (SPSS)	①				
				選択	データ分析 II (NVivo)	①				
				選択	社会表現総合演習 II	①				
				必修	社会創造学演習 I	①				
				必修	社会創造学演習 II	①				
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	7	科目	必修	7	科目	必修	0	科目
		選択	8	科目	選択	8	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	15	科目	計	15	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」



(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1 人	必修	7 科目	必修	7 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	8 科目	選択	8 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	15 科目	計	15 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{10} = 10\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。  
 ・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし						
合計					後任補充状況の集計			
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

門田圭祐助教の就任辞退にあたり、治京玉記教授を任用することとした。  
 なお、学生へは学生便覧、Webシラバス及び時間割等により周知されている。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
届 出 時 (令和5年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想を策定し、着実に実行すること。	【届出】 遵守事項 本学科の教育研究の水準を維持向上させるために、教員組織編製の将来構想を策定した。また、今後の採用計画の方針についても定めた。(6)	履行済 本学科の専任教員の内、本学の定める「教育職員の定年(65歳)」を超える者が完成年度において2名となる。完成年度以降、この2名の教授する科目分野を中心とした若手・中堅教員の採用について積極的に行う予定である。(6)
届 出 時 (令和5年)	・保健医療学部作業療法学科、言語聴覚学科の収容定員未充足の是正に努めること。	【届出】 遵守事項 学生確保については大学全体の喫緊の課題として認識しており、今年度も全教職員で学生募集活動に臨む予定である。 具体的には、以下の取り組みを行う。 1. オープンキャンパスのプログラムを見直し、参加者からの出願率を向上させる。 2. ホームページにおけるタイムリーな情報発信に努める。 3. 高校訪問の強化及び高校内ガイダンス(医療系分野)への積極参加。 4. 「作業療法士」「言語聴覚士」国家試験合格率等の実績の積極的なアピール。 また、将来の学科改組に併せて入学定員の見直しも検討する予定である。(6)	履行済 次年度以降も全教職員で学生募集活動に臨み、学生確保に努める予定である。(6)
届 出 時 (令和5年)	・人間科学部医療福祉学科の収容定員未充足の是正に努めること。	【届出】 遵守事項 学生確保については大学全体の喫緊の課題として認識しており、今年度も全教職員で学生募集活動に臨む予定である。 具体的には、以下の取り組みを行う。 1. オープンキャンパスのプログラムを見直し、参加者からの出願率を向上させる。 2. ホームページにおけるタイムリーな情報発信に努める。 3. 高校訪問の強化及び高校内ガイダンス(医療系分野)への積極参加。 4. 「視能訓練士」国家試験合格率等の実績の積極的なアピール。 また、今回の社会創造学科新設に併せて入学定員を減じ、適正な入学定員を設定した。(6)	履行済 次年度以降も全教職員で学生募集活動に臨み、学生確保に努める予定である。(6)

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

**【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】**

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。

**【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】**

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)(6)」と記載してください。

**【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】**

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<人間科学部 社会創造学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

本学では「FD・SD委員会」を設置し、以下のFD活動を推進している。委員長は教学部長であり、各学科の代表委員と幹部事務職員でその活動を行っている。

- (1) FD・SDに係る基本方針及び年度計画に関すること。
- (2) FD・SD活動の企画・立案に関すること。
- (3) 教育の質的向上に向けた諸施策の企画・立案に関すること。
- (4) 教職員の能力開発のための諸施策の企画・立案に関すること。
- (5) その他FD・SDに関すること。

##### b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

「FD・SD委員会」は毎月1回の定例委員会を開催している。

参加メンバーは、教学部長を委員長とし、各学科から教員が1名ずつ委員となっている。定例委員会の教員の参加率は100%に近い。また、年に1回以上は委員会主催の「FD・SD研修会」を全教職員対象に実施している。令和5年度は令和5年9月に「生成AI」について、令和6年3月に「ルーブリック」について対面形式の研修会を実施した。

##### c 委員会の審議事項等

令和5年度の「FD・SD委員会」は、①「新任教員オリエンテーション研修会」の開催について、②「学生による授業評価」の実施について、③「教員相互の授業参観」の実施について、④「FD・SD研修会」について、⑤「シラバス点検」について、⑥学外の各種FD研修会や他大学の取り組み研究などについて、実施の準備から実施結果の分析まで討議・審議を行った。

#### ② 実施状況

##### a 実施内容

- ・新任教員オリエンテーション研修会(4月)
- ・学生による授業評価(7月～8月、1月～2月)
- ・教員相互の授業参観の実施(9月～1月)
- ・FD・SD研修会(9月・3月)
- ・シラバス点検(3月)

##### b 実施方法

- ・「新任教員オリエンテーション研修会」は毎年4月に実施し、新任教員が参加している。
- ・「学生による授業評価」は前期・後期ともに、ほぼすべての科目について実施し、その結果を学生と教員に公開した。また、教員に対してはアンケート結果を受けての授業改善計画(リフレクション)の作成・提出の依頼を行った。
- ・「教員相互の授業参観」については対面での授業参観または授業動画視聴のハイブリッド方式で実施をした。
- ・「FD・SD研修会」は、令和5年9月には「生成AIを活用した教育・研究」について、令和6年3月には「ルーブリックの運用」についてをそれぞれテーマとし、対面での研修会を実施した。
- ・「シラバス点検」については、FD・SD委員が中心となりシラバス点検委員会を構成し、所属学科の授業科目を中心にシラバス点検を実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・「新任教員オリエンテーション研修会」は、令和5年度は4名中3名が、令和6年度は12名中12名が対面で参加した。
- ・「学生による授業評価」は、前期・後期それぞれの授業科目について専任教員・非常勤講師ともにほぼ全ての教員が実施した。
- ・「教員相互の授業参観」では、各学科から提供された11科目の授業について、対面参観もしくは授業動画視聴を実施し、全体の52.4%にあたる44名からのアンケート回答を得た。
- ・「FD・SD研修会」は令和5年9月と令和6年3月の2回いずれも対面で実施をし、研修会動画視聴も含めて令和5年9月には全専任教職員の89.9%（107/119）が、令和6年3月には100%（117/117）が参加した。
- ・「シラバス点検」は令和6年度の大学での開講科目全990科目すべてについて点検を実施し、授業担当教員に必要な修正依頼等を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

年2回実施している学生による授業評価は定着している。学生にフィードバックするとともに、教員自身の自分の授業を見つめてもらう目的で、リフレクションペーパーを提出してもらっている。  
また、「学修ポートフォリオ」の活用についてもその活用状況調査を実施し、専任教員・非常勤講師ともに活用の促進を図っている。  
シラバス点検では、委員が他の教員のシラバス点検を実施することで、シラバスの改善だけでなく点検委員としてのFDを図ることができている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学生による授業評価は、毎年度2回（前期と後期）実施している。授業担当教員はその結果を受けてリフレクションペーパーを作成することで授業改善に役立てることとしている。令和4年度からはアンケート結果だけでなく、当該授業科目の成績分布に基づくリフレクションも依頼をし、授業の到達目標に対する修得状況からの授業改善の検討も行っている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

結果の利用については、当該授業担当教員への返却だけでなく、学内SNSであるユニバーサルパスポート上で学生及び教職員にも公開している。また、ユニバーサルパスポート上での公開に加えて、全体の集計結果については大学ホームページでも公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

「共生社会」の実現を目指す本学の教育において、人間科学部社会創造学科は「人間と社会との共生」を目指すべき理念としている。人間を「社会の中での存在」と捉え、複雑・多様かつ変化が早い知識基盤社会を社会学的視点から構造的に捉え、その構造に内包する社会課題を可視化することで課題を理解・発見し、「分野を超えた専門知・技能の組み合わせ」「多職種の連携」という点を重視しながら解決に向けて新しい未来型社会を提案・表現する人材を養成する。

社会創造学科においては、社会学を基礎として、文化人類学・認知科学・情報科学等、社会の課題を構成する要素とその関係の変化を捉えて課題解決することを可能にする学際的・学融合的な学びを展開する。さらに、専門職業人としてのスペシャリストと協働して創造的に思考し、新しい提案を構想・デザインして提言するために、人間と社会をつなぐ新時代に適応した表現能力も育成していく。これらを踏まえた人材養成プロセスの中で「課題発見・解決能力」「創造的思考力」「構想・デザイン力」「発信・表現力」「他者とつながる力」の修得を教育研究上の目的とする。

令和6年度に教育活動を開始した本学科においては、その目的達成の緒に就いたところである。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和5年9月公表

b 公表方法

- ・大学ホームページで公開(<https://www.ohs.ac.jp/>)

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和6年度に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）による大学機関別認証評価を受審する予定である。前回は平成29年度に受審し、「大学評価基準に適合している」との認定を得た。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。